

目次

序論 中世大道の成立と鎌倉街道 ————— 高橋 修 3

——常陸・北下総の事例から——

第1部 論考編

金砂合戦と鎌倉街道 ————— 木村 茂光 37

鎌倉街道と町場 —常陸国中郡の宿と町—— 宇留野 主税 59

小田城と常陸の中世道 ————— 越田 真太郎 85

下野の鎌倉街道 —中世会津街道を中心に—— 江田 郁夫 109

下総西部の鎌倉街道中道 ————— 内山 俊身 125

中世下総国毛呂郷域の「鎌倉大道」 ————— 清水 亮 155

考古資料からみた茨城県内の中世道路 ————— 比毛 君男 171

第2部 資料編 鎌倉街道下道現況調査報告

資料編凡例

下総との国境湿地に浮かぶ台地の道 ■北相馬郡利根町 ■—— 前川 辰徳 193

内海世界と下道を結ぶ ■牛久市岡見とその周辺 ■—— 額賀 大輔 203

霞ヶ浦を望む桜川・花室川の渡河点 ■土浦市 ■—— 比毛 君男 215

常陸国府と筑波に通じる二本の道 ■かすみがうら市 ■—— 千葉 隆司 231

五万堀古道 ■笠間市 ■—— 大関 武 239

筑波山南麓の東西道 ■土浦市 ■—— 越田 真太郎 251

下野国と奥大道をつなぐ小栗への道 ■桜川市・筑西市 ■—— 宇留野 主税 261

あとがき 277

執筆者一覧 280

序論 中世大道の成立と鎌倉街道

高橋 修

——常陸・北下総の事例から——

はじめに

本書の序論としての本稿では、まず鎌倉街道に象徴される中世の「大道」とは何か、考えてみたい。近年の議論を整理しつつ、その担い手を明らかにし、「大道」の成立背景を追究する。ついでそれを前提としながら、比較的史料に恵まれている常陸や北下総の事例に即して、「大道」の成立史をうかがう。北関東における「大道」形成の端緒を史料の中に探り、幕府により鎌倉街道中道・下道が整備される経緯とその意義について考察したい。

本書の第1部論考編には、北関東の鎌倉街道中道・下道にかかわる歴史学・考古学的な研究成果が収められ、第2部資料編には、同下道の道筋についての現況調査成果が収録される。以下、各論稿にかかわる論点についても指摘しながら論述を進めていきたい。

1 中世前期の大道について

ここでは中世の主要道「大道」とは、どのような規模をもち、いかなる機能を果たしていたのかを概観する。鎌倉